



一 学校評価と次年度に向けて

アンケートとともに意見・要望も多数頂きましたので、それも踏まえて教育活動の改善充実につなげていきたいと思ひます。

1 評価概要

- ・評価形式：無記名 各項目4段階評価（平均評価から傾向を考察）
- ・評価者：4～6年児童、保護者（PTA役員）、教職員
- ・評価時期：平成31年1月

2 評価結果

(1) アンケート結果

評価： 4 とてもそう思う 3 そう思う 2 あまりそう思わない 1 全然そう思わない		評価者		
項目	項 目	児 童	保 護 者	教 師
		学校運営	楽しい学校生活	3.3
	家庭への連絡や情報提供	3.5	3.0	3.2
	ESD（地域とかかわる・つながること）について	3.2	3.0	2.5
学校行事	運動会の持ち方	3.5	3.6	3.5
	総合学習発表会の持ち方	3.4	3.2	3.0
教科指導	分かりやすい授業	3.6	3.1	3.2
	授業に集中するような工夫	3.3		3.0
	思いや考えを意欲的に発表する工夫	3.1		3.0
生徒指導	あいさつ	3.0	2.9	3.2
	児童の悩みや相談などへの対応	3.3	3.0	3.2
	いじめなどのない楽しい学級づくり	3.5	2.9	3.4
人 権	学級の人や友だちを大切に生活する指導	3.4	3.3	3.5
	言葉遣いの指導	3.0	2.6	3.3
環 境	安心して過ごせる環境	3.0	2.7	3.3
	美しい学校にする取り組み	3.3	3.0	3.2
	登下校中の安全	3.5	3.1	2.8
防 災	学校内外で被災した場合の対応	3.2	2.3	2.8

(2) 考察

①学習・学校行事

- ・ 運動会、総合学習発表会といった学校行事は、児童・保護者・教師ともに評価が高く、三者とも関心の高さが伺えます。活動とともに運営面でも児童を生かし、その様子をHPや学校学年だより等で積極的に発信することでさらに関心は高まっていくものと考えます。
- ・ 分かりやすい授業づくりについて児童・保護者の評価が高いのは、これまでの教師の様々な手だてが子どもたちに受け入れられていると考えられます。一方で、自分の思いや考えを交流するのが苦手だと考える児童も多く、シンキングツールを取り入れたたり、意見交流の時間確保に努めたりするなど効果的な指導方法の模索が続いています。

②学校生活・人権

- ・ コミュニケーションスキルを高めるための指導の成果が表れ、多くの児童には友達を大切に生活する態度が養われています。
- ・ あいさつや言葉遣いの指導には課題が多く、特に保護者が心配している様子がうかがえます。このことは「いじめのない学級づくり」の数値とも関連づけても考えていく必要があります。

- ・「安心して過ごせる環境」については、夏の暑さ対策をはじめとする施設面と生徒指導面の両面からの保護者の心配が数値となって表れています。

③ その他

- ・ 学校外で災害に遭ったときの対処の仕方に、職員も保護者も不安があることがわかります。防災教育の充実が求められます。

(3) ESDについての意識調査【平成31年2月 全校アンケート】

数値は「思う」と答えた児童 (%)	
甚目寺をすばらしい町、よい町だと思いますか。	92
甚目寺を自分の「ふるさと」として、大切にしたいと思いますか。	94
甚目寺の現在や未来のために、何か考えたり行動したりしたいと思いますか。	84

- ・ ESD研究協議会を通して職員は、ESDの捉え方、指導計画、ESDの視点での授業づくりなど一定の成果を得ることができました。
- ・ 「ふるさと学習」の取り組みを全学年で体系化し、見学・取材活動を通して先人や地域の人々の思いについて調べ、子どもたちが考えたことを発信したり、できることに取り組んだりする活動を積み上げてきたことにより、地域を大切にしたいという思いは高い水準にあります。

3 学校運営協議会の会議録より

(平成31年3月7日 6年生を送る会参観後に開催 ※学校評価を示し意見交換)

- ・ 情報モラルについて、スマホ等の扱いについて、保護者が今以上に興味をもつことが大切である。子どもたちの考え方は狭いが、機器の活用範囲はとて広いので、トラブルに巻き込まれてしまう。
- ・ 新学習指導要領で英語の学習やプログラミング学習を行うことになっているが、興味・関心をもたせることに重点を置くことを望みたい。
- ・ 子どもの心を動かす体験が大切である。「やってみよう」という気持ちを引き出すことを工夫し、そういう時間を作り出したい。参観した6年生を送る会での、先生も一緒に踊る姿、伴奏が途切れたらそれをカバーしようとそれまでより大きな声で歌う6年生の姿を見れば、心は自然に動く。
- ・ コミュニティスクール運営には、課題が今後も出てくると思われるが、先進校から情報を得るなどして、態勢づくりや充実に努めてほしい。
- ・ 学校が対応しなければならない内容が年々増えてきているが、流れに埋没しないように願う。

4 今後の取り組み

- ・ 新学習指導要領実施に伴う授業時数の確保に向けて、ESDカレンダーおよび生活科・総合的な学習の時間年間指導計画の焦点化を図り、特別の教科道徳を含む教科（以下、各教科と表記）および特別活動との関連を重視しながら、調和の取れたカリキュラムの運用を目指します。
- ・ コミュニケーション能力を高めるエクササイズの実践と平行して、人や地域と「かかわる」体験活動を進める中で、各教科・領域の一体化した教育活動を目指します。
- ・ 授業における「思考の見える化」や話し合い活動の充実により、児童相互が高め合うことができる授業づくりを目指し、思考の整理や授業の振り返りを「書く活動」で行うことにより学習内容の定着と単元の授業のつながりを実感できるようにする。
- ・ ESDおよびSDGs、ユニバーサルデザインを意識した環境整備に努めます。
- ・ 児童会を中心に児童主体の人権意識を向上させる取り組みの継続、他者を思いやる気持ちの育成を図る活動の充実に取り組みます。
- ・ 時と場に応じた言葉遣いの指導と平行して、敬語使用やあいさつの習慣化を図ります。
- ・ 防災・安全意識を高め、自分の身は自分で守るという意識を高めます。
- ・ コミュニティスクールとしての態勢充実に努め、学校・保護者・地域との一層の連携により、地域全体で子どもを育てる意識の広がりを目指します。

お礼 「明日咲くつばみ」という名称での甚小だよりは、今号で終了とさせていただきます。
長らくのご愛読ありがとうございました。

